

四半期報告書

(第56期第1四半期)

自 2019年4月1日

至 2019年6月30日

ワタベウェディング株式会社

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(5) 大株主の状況	4
(6) 議決権の状況	5

2 役員等の状況	5
----------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10

2 その他	14
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年8月8日
【四半期会計期間】	第56期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	ワタベウェディング株式会社
【英訳名】	WATABE WEDDING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 花房 伸晃
【本店の所在の場所】	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
【電話番号】	075（778）4111（代表）
【事務連絡者氏名】	グループ管理本部長 鈴木 眞治
【最寄りの連絡場所】	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
【電話番号】	075（778）4111（代表）
【事務連絡者氏名】	グループ管理本部長 鈴木 眞治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第1四半期連結 累計期間	第56期 第1四半期連結 累計期間	第55期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	12,330	13,287	48,458
経常利益 (百万円)	673	820	738
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	389	476	218
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	416	130	196
純資産額 (百万円)	10,800	10,707	10,577
総資産額 (百万円)	24,456	24,173	24,436
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	39.27	48.10	22.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	44.1	44.3	43.3

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 2019年6月27日に開催された定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、当連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。この結果、従来より決算期が12月31日であった一部の連結子会社については、前第1四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年3月31日までの損益を基礎として連結しておりましたが、当第1四半期連結累計期間は2019年4月1日から2019年6月30日までの損益を連結しております。なお、当該連結子会社の2019年1月1日から2019年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、2019年6月27日に開催された定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、当連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。この結果、従来より決算期が12月31日であった一部の連結子会社については、前第1四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年3月31日までの損益を基礎として連結しておりましたが、当第1四半期連結累計期間は2019年4月1日から2019年6月30日までの損益を連結しております。また、当該連結子会社の2019年1月1日から2019年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における運営状況と経営成績について、「リゾート挙式」におきましては、前期にオープンした沖縄の「古宇利島 空と海の教会」、ハワイの「コオリナ・チャペル・プレイス・オブ・ジョイ」が好調に稼働いたしました。さらに、顧客志向を反映したトレンド性の高い商品展開や、顧客ニーズを汲み取るコンサルティング型の営業力を強化するなどし、挙式組数の増加及び1組当たり単価が向上いたしました。前期にグループ化した旅行会社「株式会社コンパクトシーク」においては、リゾート挙式顧客に向けたオリジナル旅行商品を展開するなど積極的な営業施策を実施し、売上に大きく寄与いたしました。

また、成長戦略の重点施策のひとつである海外展開を加速すべく、2019年1月より近年人気の高まるリゾート地、ベトナム・ダナンでの挙式サービスを開始し好調に推移するとともに、2019年4月に韓国に現地法人を設立し、香港・台湾・上海に続き、新たな販売拠点を設け、アジアを中心とした海外顧客向けサービスの拡充に努めました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、ホテル雅叙園東京では、日本美あふれる唯一無二の空間である施設の特徴を活かしたブランド戦略を国内外へ向け積極的に展開し、婚礼、宿泊共に堅調に推移いたしました。メルパルクでは、宿泊において、市場動向を加味した価格コントロールを都度実施したことにより、稼働率、客室単価共に向上いたしました。また、前期よりメルパルクのフォト事業をワタベウェディングの直営店としてリニューアルを行うなどサービス向上に努めた結果、フォトウェディングの実施組数が大幅に増加し、収益に寄与いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高13,287百万円（前年同四半期比7.8%増）、営業利益614百万円（前年同四半期比0.6%増）、経常利益820百万円（前年同四半期比21.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益476百万円（前年同四半期比22.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

ハワイの主力挙式施設が好調に稼働し、顧客ニーズに合わせた商品展開などを実施した結果、売上高は5,907百万円（前年同四半期比15.1%増）となったほか、利益面につきましては、新施設を中心としたプロモーション強化や成長事業推進などに伴う販売管理費の増加により、セグメント利益は80百万円（前年同四半期比12.7%減）となりました。

② ホテル・国内挙式

積極的なブランド価値訴求や前期に実施した施設リニューアルなどの効果により、売上高は7,380百万円（前年同四半期比2.5%増）となったほか、利益面につきましては、原価率が上昇したことなどにより、505百万円（前年同四半期比1.1%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ355百万円減少し、8,264百万円となりました。これは主に売掛金が増加した一方で、現金及び預金が増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ92百万円増加し、15,908百万円となりました。これは主に有形固定資産のその他が増加した一方で、建物及び構築物が減少したことによるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ262百万円減少し、24,173百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ567百万円減少し、9,869百万円となりました。これは主に賞与引当金及び流動負債のその他の減少によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ174百万円増加し、3,595百万円となりました。これは主に固定負債のその他の増加によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ393百万円減少し、13,465百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ130百万円増加し、10,707百万円となりました。これは主に利益剰余金が増加した一方で、為替換算調整勘定が減少したことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数 (株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (2019年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,909,400	9,909,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	9,909,400	9,909,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	—	9,909,400	—	4,176	—	4,038

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 600	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,906,200	99,062	—
単元未満株式	普通株式 2,600	—	—
発行済株式総数	9,909,400	—	—
総株主の議決権	—	99,062	—

②【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
ワタベウェディング 株式会社	京都市下京区 四条通烏丸東入 長刀鉾町20番地	600	—	600	0.00
計	—	600	—	600	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,072	4,507
売掛金	1,665	1,841
商品	187	217
原材料及び貯蔵品	403	422
その他	1,307	1,293
貸倒引当金	△15	△17
流動資産合計	8,620	8,264
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳（純額）	104	111
建物及び構築物（純額）	6,225	6,052
器具備品（純額）	1,223	1,184
土地	1,719	1,675
その他（純額）	288	649
有形固定資産合計	9,561	9,673
無形固定資産		
のれん	672	662
その他	970	1,021
無形固定資産合計	1,642	1,683
投資その他の資産		
差入保証金	2,697	2,690
その他	1,925	1,872
貸倒引当金	△11	△12
投資その他の資産合計	4,611	4,551
固定資産合計	15,815	15,908
資産合計	24,436	24,173

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,986	2,197
短期借入金	1,200	1,010
前受金	3,231	3,199
賞与引当金	782	415
その他	3,237	3,047
流動負債合計	10,437	9,869
固定負債		
長期借入金	1,000	890
退職給付に係る負債	1,280	1,321
資産除去債務	880	869
その他	260	513
固定負債合計	3,421	3,595
負債合計	13,858	13,465
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,051	4,047
利益剰余金	2,735	3,117
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,962	11,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	22
繰延ヘッジ損益	10	△64
土地再評価差額金	△773	△681
為替換算調整勘定	416	152
退職給付に係る調整累計額	△68	△70
その他の包括利益累計額合計	△392	△641
非支配株主持分	7	8
純資産合計	10,577	10,707
負債純資産合計	24,436	24,173

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	12,330	13,287
売上原価	3,872	4,379
売上総利益	8,457	8,908
販売費及び一般管理費	7,845	8,294
営業利益	611	614
営業外収益		
為替差益	85	171
その他	31	41
営業外収益合計	117	213
営業外費用		
支払利息	2	2
持分法による投資損失	0	1
休止施設費用	48	—
その他	2	3
営業外費用合計	54	7
経常利益	673	820
特別利益		
受取補償金	13	—
特別利益合計	13	—
特別損失		
固定資産除売却損	—	45
施設店舗整理損	14	—
特別損失合計	14	45
税金等調整前四半期純利益	672	774
法人税等	282	302
四半期純利益	390	472
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	389	476

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	390	472
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
繰延ヘッジ損益	58	△74
為替換算調整勘定	△37	△262
退職給付に係る調整額	3	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△1
その他の包括利益合計	25	△341
四半期包括利益	416	130
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	414	135
非支配株主に係る四半期包括利益	1	△4

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間から、新規設立等によりワタベ・コリアCO.,LTD.他2社を連結範囲に含めておりません。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

当社グループのIFRS適用子会社は、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」(2016年1月公表)(以下、IFRS第16号)を適用しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間における連結貸借対照表は、有形固定資産のその他(純額)が363百万円、流動負債のその他が115百万円、固定負債のその他が247百万円それぞれ増加しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(連結決算日の変更に関する事項)

2019年6月27日に開催された定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、当連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。変更の理由は、当社グループの決算期を統一することで、予算編成や業績管理等、グローバルな事業運営の効率化を図り、グループ一体となった経営を推進するためであります。

これに伴い、決算期変更の経過期間となる当連結会計年度は2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月決算となります。

また、従来より決算期が12月31日であった一部の連結子会社については、前第1四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年3月31日までの損益を基礎として連結しておりましたが、当第1四半期連結累計期間は2019年4月1日から2019年6月30日までの損益を連結しております。なお、当該連結子会社の2019年1月1日から2019年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	357百万円	406百万円
のれんの償却額	14	17

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	49	5	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	49	5	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	5,132	7,197	12,330	—	12,330
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,958	37	1,996	△1,996	—
計	7,091	7,235	14,326	△1,996	12,330
セグメント利益	92	511	603	7	611

(注) 1. セグメント利益の調整額7百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	5,907	7,380	13,287	—	13,287
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,518	92	2,610	△2,610	—
計	8,426	7,472	15,898	△2,610	13,287
セグメント利益	80	505	586	28	614

(注) 1. セグメント利益の調整額28百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	39円27銭	48円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	389	476
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	389	476
普通株式の期中平均株式数 (株)	9,908,878	9,908,774

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年5月14日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………49百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2019年6月28日

(注) 2019年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月2日

ワタベウェディング株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩淵 貴史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上田 博規 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているワタベウェディング株式会社の2019年4月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ワタベウェディング株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年8月8日
【会社名】	ワタベウェディング株式会社
【英訳名】	WATABE WEDDING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 花房 伸晃
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

代表取締役 社長執行役員 花房 伸晃は、当社の第56期第1四半期（自2019年4月1日 至2019年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。